

船橋洋一著「湛山読本」を読んで考えよう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今年の冬は、暖かい日があったかと思えば、この何日間かのように非常に寒い日が続いたりしています。皆さんには、風邪を引かないように注意していただければと思います。
2. この「開倫塾の時間」では、皆さんに読んでいただきたい本を、月に1冊ぐらいずつ紹介させていただいております。今日は、船橋洋一さんという方がお書きになった本です。

船橋洋一さんは、昔、朝日新聞の主筆として社説やコラムを書かれていました。私が非常に尊敬するジャーナリストで、2年に1度ぐらいお話を聞いています。つい最近の1月28日の木曜日にも、少人数の勉強会で1時間ほどお話をお聞きし、非常に勉強になりました。
3. 船橋先生から、ぜひ読んでいただければということで、1冊の本を紹介されました。それは、「湛山読本」という本です。石橋湛山という方が、昔おられました。この方はジャーナリストでしたが、1957年(昭和32年)の73歳のときに日本の首相になりました。戦前はジャーナリストとして東洋経済新報社というところでいろいろな執筆活動をなさっていましたが、第二次世界大戦終了後は大蔵大臣や通産大臣を経て、1957年に首相になって活躍なさいました。ただ、首相に就任してから2か月しか経っていないのに、病気を理由に首相を辞任しました。肺炎で倒れた石橋湛山さんは、予算審議に出席できないと知って辞任したわけです。これが潔いということで、非常に評判になった方です。首相を辞めたあと、お体は回復したのですが、二度と政界に戻ることはありませんでした。院政・黒幕・闇將軍になるというような類の方では全くなかったため、非常に清廉だということで有名な方です。
4. 先に紹介した、朝日新聞の主筆として社説やコラムを書かれていた船橋洋一さんが、石橋湛山を通して今の政治や社会を考えるとという本を出されました。「湛山読本—いまこそ、自由主義、再興せよ」という本で、去年の12月3日に東洋経済新報社から出ました。まさに石橋湛山さんが活躍した出版社から出た本です。ぜひ、皆さんにもこの本を読んでいただきたいと思い、紹介させていただきます。
5. 石橋湛山さんの勉強の仕方も参考になります。日本の本もたくさん読まれていましたが、英語の本を原書で読むという原書主義ということも、湛山さんの勉強の仕方の1つです。どんなことかと言いますと、東洋経済新報社に入社してから経済学を独学で勉強しましたが、その時にアダム・スミスやジョン・スチュアート・ミル、ウォルター・バジヨット、ジョン・メイナード・ケ

インズなど有名な人の著書を原書で、つまり英語の本はそのまま英語で読破したそうです。特に有名なのは、アダム・スミスの「国富論」やケインズの本ですが、そのような経済学の古典を隅から隅まで読破して、粘着力のある思考方法と、ものごとの本質を結晶化させる質の高い批判力を磨いたということです。

6. このように、例えば大蔵大臣として財政改革を行った高橋是清さん、慶應義塾を創った福沢諭吉さん、条約改正で大活躍をした外務大臣の陸奥宗光さんや小村寿太郎さんなど戦前の方々は、英語の本は英語で隅から隅まで読むなどして非常に勉強なさっていました。誰もがこんなことはなかなかできなかつたでしょうが、昔の方々は本当によく頑張ったと思います。
7. それから、石橋湛山さん自身について紹介させていただきます。アメリカから招かれたクラーク博士が創設に力を尽くし、そこで教えた札幌農学校の第一期生の大島先生という校長先生に山梨の中学校で教えを受け、クラーク博士の大ファンになりました。湛山さんは、大島先生がクラーク博士の愛弟子だったことを通じて、クラーク博士を非常に尊敬し、孫弟子として尊敬して誇りに思っていました。
8. ところで、クラーク博士が残したことばに、「Be gentleman」「Boys, be ambitious!」があります。「Be gentleman」の gentlemanは「ジェントルマン」、Beは「何とかであるべきだ」、つまり「志ある者はジェントルマン、君子たれ」ということです。君子は、ちょっと古いことばかもしれませんが、徳とか人徳ということですが、そこで、「人格が優れた人であるべきだ」ととらえました。また、「Boys, be ambitious!」は「少年よ、大志をいだけ」とし、志を立てることを非常に大事にしたそうです。
9. 普通は、「～してはいけない」ということを校則で示す学校が多いですが、クラーク博士が教えていた札幌農学校では外から「～をなささい」とか「～をしてはならない」と強いるのではなく、青年たちが心の中から自発的に自分自身のルールを考えることが大事だということに眼目を置いていたそうです。そのため、外から「～をなささい」と言われてするのではなく、自分でやってよいこと・悪いことを考えることが大事だという考えを、湛山さんも大事になさいました。
10. 湛山さんはまた、教育とメディアリテラシーといえる新聞や雑誌の普及によって、民主主義を機能させることが大事だということを唱えられました。そのような形で、市民を大事にして、一人ひとりが自立することによって社会が成り立つんだという考えで社会を引っ張っていたジャーナリストです。本当に素晴らしい方だと思います。
11. これらのことを船橋洋一さんは「湛山読本」という本の中で紹介なさっています。本屋さんには必ず置いてあります。ちょっと厚めの本ですがぜひ皆さんもお読みになり、自由主義とは何か・ものごとをどのように考えたらよいのかなどについてお考えになっていただければと思います。